

発展と衰退： 近年の英語において文法は どのように変化してきたか？

言語の歴史研究は、ポジティブな側面として新しい事象や頻度の増加に注目する傾向がある。例えば、文法化のプロセスは、英語における最近の頻度の増加（例：be going toやhave toなどの進行形や半法助動詞の使用増加）と関係づけられたりする。一方で、一部の法助動詞や受動態は衰退している。本講義では、増加も減少も含めて、なぜそのような変化が起きるのかを問いかける。歴史的なコーパス資料に基づくコーパス言語学の知見について述べたい。

日時：10月15日（月）6時限18：00～19：30

会場：和泉キャンパス メディア棟3階M305教室

講師：ジェフリー・リーチ博士

※英語のみによる講義です。



プロフィール：

ジェフリー・リーチ博士は、英国ランカスター大学英語言語学部の名誉教授です。同大学で40年以上に渡り教鞭をとられました。これまでに、文体論、英文法、語用論、コンピュータ言語学、コーパス言語学の分野で、単著・共著を含め30冊以上の著書、120編以上の論文を執筆されました。1970年代、80年代には、言語学研究のためのコンピュータ・コーパスの開発、注釈、利用を先駆的におこないました。博士はコンピュータベースの研究を現在も継続中で、2009年には、20世紀の様々な時期における英語コーパスを比較分析した”*Changes in Contemporary English: a Grammatical Study*” (Marianne Hundt, Christian Mair, Nicholas Smithとの共著) を出版されています。リーチ博士はランカスター大学の名誉評議員、英国アカデミーの正会員、ヨーロッパアカデミー会員でもあります。

コーディネーター：大須賀直子准教授

予約不要：学部生の受講可

学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。
国際日本学研究所：TEL03-5300-1536